

再々評価調書

事業名	西大阪地区 耐震対策事業			
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 都市河川グループ(連絡先 06-6944-9299)			
事業箇所	安治川、木津川、尻無川、六軒家川の各水門より上流及び堂島川、土佐堀川			
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中			
事業概要	目的	震度6強の直下型地震にも対応できるよう、護岸及び水門の耐震補強を行う。 (設計水平震度: Kh = 0.24)		
	内容	護岸補強: L = 27.64 km 既設防潮堤の前面に新たに構造物を構築し、一体として地震動に耐える構造とする。		
	事業費 ( )内の数値 は前回評価時点のもの	全体事業費: 約758億円(約758億円)内投資済事業費: 約629億円(約419億円) (内訳)工事費約758億円(約758億円)(内訳)工事費約629億円(約419億円) 【事業費の変更理由】 変動なし 【工事費の内訳】 護岸補強: 約758億円		
	事業費の変動要因	【他事業者との協議状況】入堀部等の有効活用のため関係者と引き続き協議を行う。 【再評価時に予測した事業費変動要因の状況】 河川構造物の耐震性能照査指針(案)[H19.3]の発表により、対策必要箇所の精査に伴い事業費が変動することが予想される。(現行からの変更点: 対象地震動波形の増大及び照査手法の変更。)H20年度に照査を実施予定であり、照査の結果上位計画に変更を伴った場合、事業費の変動が予想される。 【計画変更の予定】H20年度に地震防災アクションプログラムの見直しを検討 H21年度に河川整備計画の見直しを検討		
	維持管理費	約4.4億円/年(平成15年~19年の維持管理費の平均)		
	上位計画	大阪府土木部 地震防災アクションプログラム[H10.3] 淀川水系西大阪ブロック河川整備計画[H19.8] 大阪府都市基盤整備中期計画(案)改定版[H17.3]		
	関連事業	旧淀川筋高潮対策事業(高潮対策及び水門外防潮堤の耐震補強)		
	経過	事前評価時点 (H8)	再評価時点 (H15)	再々評価時点 (H20)
事業採択年度 事業着工年度 完成予定年度	昭和52年 昭和52年 ——	昭和52年 昭和52年 平成27年	昭和52年 昭和52年 平成27年	
進捗状況	護岸補強 L=27.64km	工事55%  護岸補強 L=15.83km	工事83%  護岸補強 L=20.71km	順調に進捗している。
今後の事業進捗の見通し	平成10年策定の大阪府土木部地震防災アクションプログラムにおいて、大地震により被災すると二次災害の恐れが高い西大阪低地帯にある河川施設の耐震対策を最優先に位置づけ、平成22年度を完成目標とし、事業を推進する。 【新たなコスト縮減や代替案等の可能性】事業箇所の現場条件により、代替案等によるコスト縮減は困難。			

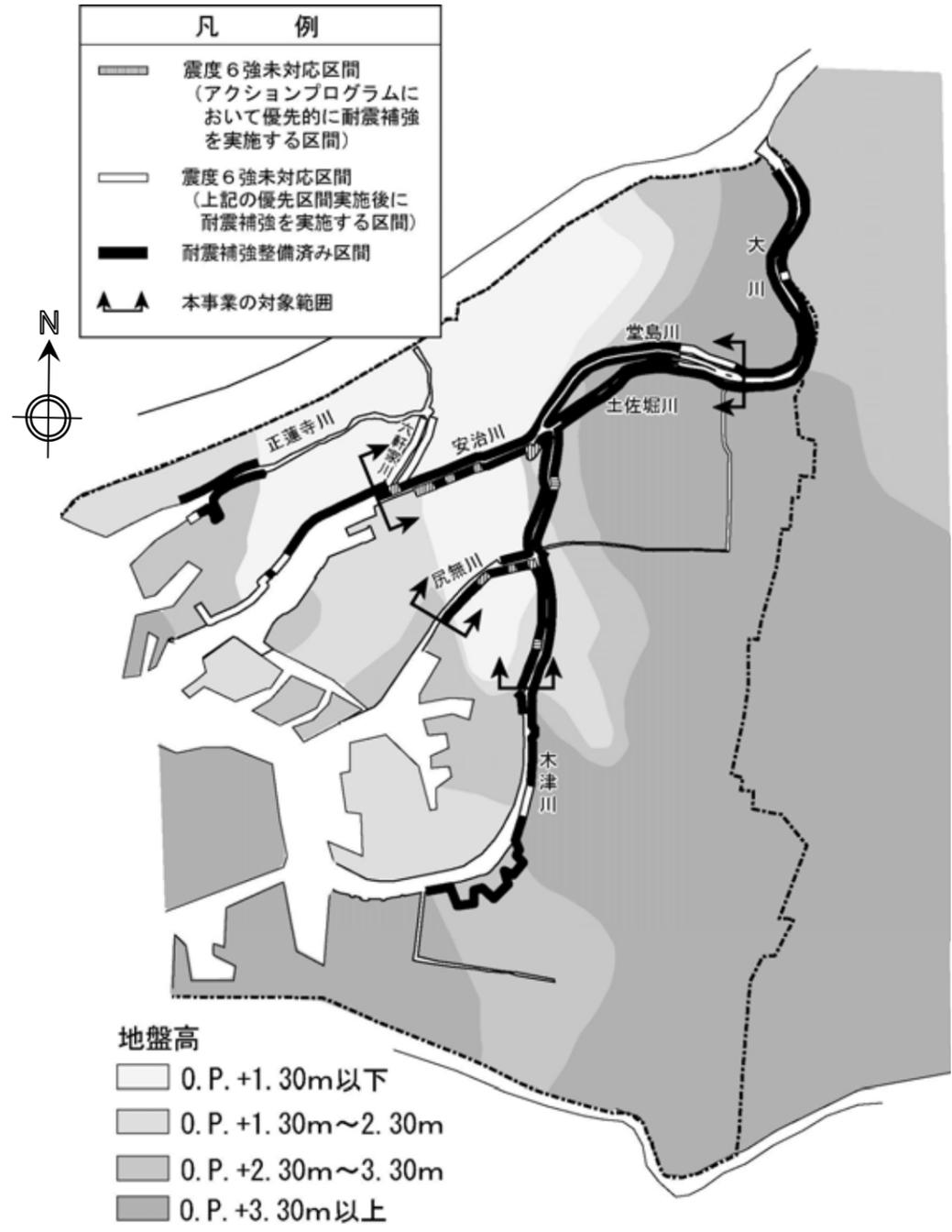
事業を巡る社会状況の変化	事業目的に関する諸状況	事前評価時点	再評価時点	再々評価時点	分析
		<p>大阪市人口・戸数: 262万人・104万戸 流域面積: 51km<sup>2</sup> 重要な公共施設: 想定氾濫区域内には多数のライフライン、広域防災道路、地下鉄、地下街等が存在。 災害弱者関連施設: 多数の小中学校、高齢者障害者関連施設、災害医療機関が存在。</p>	<p>大阪市人口・戸数: 262万人・104万戸 流域面積: 51km<sup>2</sup> 重要な公共施設: 想定氾濫区域内には多数のライフライン、広域防災道路、地下鉄、地下街等が存在。 災害弱者関連施設: 多数の小中学校、高齢者障害者関連施設、災害医療機関が存在。 平成13年9月に国の中央防災会議の専門調査会において、次の東南海・南海地震が今後30年で発生する確率が40%・50%と発表。</p>	<p>大阪市人口・戸数: 263万人・120万戸 流域面積: 51km<sup>2</sup> 重要な公共施設: 想定氾濫区域内には多数のライフライン、広域防災道路、地下鉄、地下街等が存在。 災害弱者関連施設: 多数の小中学校、高齢者障害者関連施設、災害医療機関が存在。 平成13年9月に国の中央防災会議の専門調査会において、次の東南海・南海地震が今後30年で発生する確率が40%・50%と発表。 「東南海・南海地震津波対策検討委員会」において津波シミュレーションを実施。対象河川では最高水位0.P.+5.00mの津波が地震発生後120分で到達すると想定。</p>	<p>平成14年7月には「東南海・南海地震」特別措置法が公布され、耐震対策の更なる推進が望まれる。</p>
	地元等の協力体制	<p>耐震護岸上に遊歩道や緑化の整備(大阪市) 被災後の応急対策活動(大阪市域防災計画&lt;耐震対策編&gt;) 淀川左岸水防事務組合による水防活動(淀川左岸水防事務組合水防計画) 大和川右岸水防事務組合による水防活動(大和川右岸水防事務組合水防計画) アドブトリバー等を初めとする、府民協働による協力</p>			

	事前評価時点での状況		再評価時点での状況	再々評価時点での状況(変更点)	分析	
		備考				
事業効果の分析	費用便益分析	下記、代替指標による。	<p>【算出根拠】 下記、代替指標により算出</p> <p>【再評価時点以降の算出根拠】 治水経済調査マニュアルの最新改訂版により算出(改訂年は各欄に記載)</p> <p>便益:整備期間(着工から完成)及び評価期間(完成後50年)の事業を実施した場合の高潮・津波浸水被害に対する年平均被害軽減期待額の累計、施設の残存価値をそれぞれ現在価値化し算出</p> <p>費用:前述の全体事業費及び完成後50年までの維持管理費を現在価値化し算出</p> <p>受益者:浸水想定区域内の府民及び財産</p> <p>注)高潮対策と耐震対策の費用・便益をあわせて算出</p>	<p>・ B / C = 35.83</p> <p>便益総額 B = 193,699.76 億円</p> <p>総費用 C = 5,405.78 億円</p> <p>【算出根拠】 治水経済調査マニュアル(H12.5改訂)により算出</p>	<p>・ B / C = 27.11</p> <p>便益総額 B = 237,970.73 億円 浸水被害軽減便益 237,970.73 億円</p> <p>総費用 C = 8,778.24 億円 建設費 8,299.14 億円 維持管理費 479.10 億円</p> <p>【算出根拠】 治水経済調査マニュアル(H17.4改訂)により算出</p>	<p>治水経済調査マニュアルの変更</p> <p>流域内資産の増加により、便益総額が増加。</p> <p>過去投資額を詳細に見直したことで、マニュアルが変更されたことから、総費用が増加。</p>
	その他の指標(代替指標)	<p>・ c / b = 0.40</p> <p>年平均被害軽減期待額 b = 489,336 百万円</p> <p>全体事業費 c = 195,388 百万円</p>	<p>【算出根拠】 治水経済調査要綱(S45.4策定)により算出</p> <p>便益:事業を実施した場合と実施しない場合の年平均被害軽減期待額を計上。</p> <p>費用:平成8年3月全体計画策定時の全体事業費</p> <p>受益者:浸水想定区域内の府民及び財産</p> <p>注)高潮対策と耐震対策の費用・便益をあわせて算出</p>			
	定性的分析	<p>&lt;安全・安心&gt; 超大型台風による高潮や、直下型地震を含む大地震に対応 受益者:浸水想定区域内の府民及び財産</p> <p>&lt;活力&gt; 人口・資産が集中する大阪市内における治水安全度を向上させることにより、水都再生に資する活力あるまちづくりに寄与する。 受益者:浸水想定区域内の府民</p> <p>&lt;快適性&gt; 都市空間における貴重なオープンスペースとして、ゆとりややすらぎを与える。 受益者:浸水想定区域内の府民</p>		同左	<p>東南海・南海地震による津波シミュレーション結果を踏まえ、平成17年3月に「大阪府津波対策マニュアル」を改定し、津波対策を実施</p> <p>平成15年3月に「水の都大阪再生構想」を策定 八軒家浜の再生:船着場が平成20年3月に完成</p>	<p>東南海・南海地震の発生についての認識が高まる中、地震と津波に対する安全性がさらに求められる。</p> <p>官・民の協働による「水の都大阪」の再生への機運が高まっている。</p>
自然環境等への影響と対策			河川底質のダイオキシン類の環境基準設定に伴い、工事施工中の汚濁防止や環境監視を実施。	同左		
その他特記すべき事項				津波ハザードマップ・神崎川浸水想定区域図・潮位・水位を公表している。		
前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要			<p>【意見具申】本事業については、審議の結果、事業のさらなる継続の必要性が認められ、かつ、事業進捗上も特段の支障がないと考えられるため、「事業継続は妥当」とであると判断する。</p> <p>【府の対応方針】『事業実施』とする。</p>	(前回評価に対する具体的な取組み) 引き続き事業の進捗に努める。		

# 事業概要図

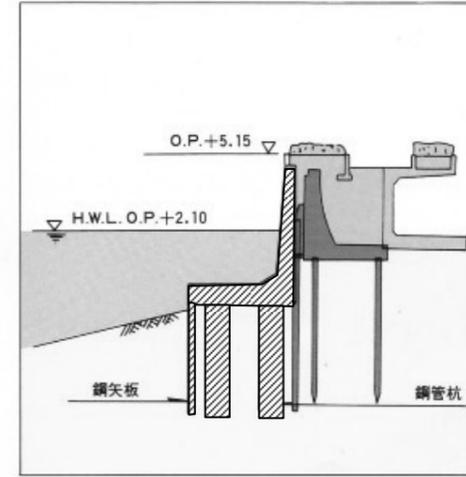
## 西大阪地区耐震対策事業

安治川、木津川、尻無川、六軒家川の各水門より上流  
及び堂島川、土佐堀川

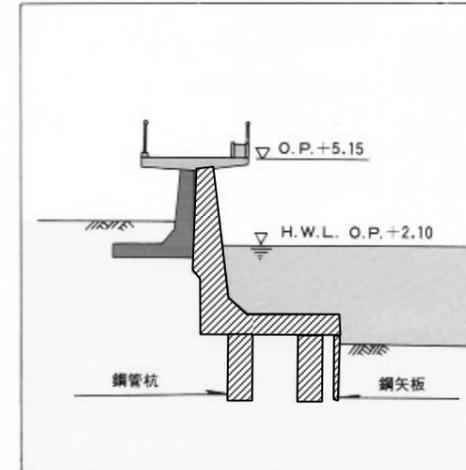


### 完成した護岸の耐震補強

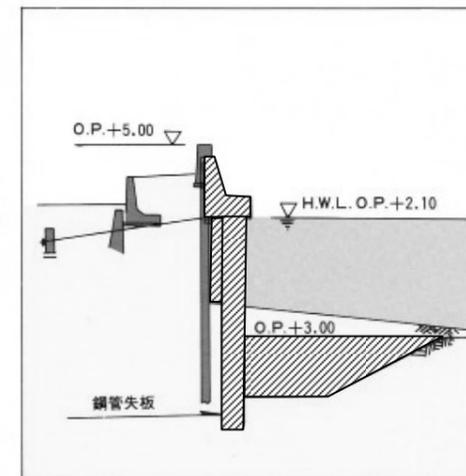
: 耐震対策事業



堂島川右岸 渡辺橋下流



土佐堀川右岸 肥後橋下流



木津川左岸 大浪橋下流